

人が基本 - ウェルカムバック採用推進 -

# 反転攻勢へ 「炎のスクラム」

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス 社長CEO兼グループCEO 小野有理氏

鳥取市のダイヤモンド電機を傘下に置くダイヤモンドエレクトリック(DE)ホールディングス(大阪市)が、2028年3月までの中長期経営計画を発表した。V字回復の目標を設定するとともに、退職者を再雇用するウェルカムバック採用を推進する方針も示した。社長CEO兼グループCEOの小野有理氏(49)は中長期経営計画に「炎のスクラム」のタイトルを付け、グループの結束を図っている。



相乗効果、経営効率率を目指す「吸引分割」を実施。その一環で、ダイヤモンド電機の本社機能を大阪市の事務所から鳥取市の生産工場へ移転した。さらに、パワーコンディショナのユーザーを対象とするコールセンターを鳥取市の敷地内に設け、新たな雇用創出に打って出た。

## 再生軌道

小野氏は語る。「息絶えるか、生まれ変わるか」は死ではなく、生きることを選んだ。しかし、困難が伴う。治療、回復にはものすごい力が必要だ。頑張るしかなかった。V字回復に挑戦するダイヤモンド電機を見守る人物が鳥取市役所にいた。大野正美・鳥取市経済観光部長だ。

大野部長は、DEホールディングスの業績が載る会社四季報をチェックしていた。前期部門赤字の自動車機器は価格転嫁や新規受注の増加に加え、構造改善進展で採算良化、などとする今秋号の記事に「再生軌道に入っている」と実感したという。

実は、鳥取市は地元のダイヤモンド電機と連携し、地域マイクログリッド導入の可能性を22年度に調査したばかり。太陽光発電やバイオマス発電の再生可能エネルギーで電気をつくり、蓄電池などで電力量をコントロールすることで地域内の電力供給をまかなうもので、市は今後も、脱炭素化、地方創生に向けてダイヤモンド電機に協力を求める意向だ。

市側がダイヤモンド電機側に期待するのは、エネルギーを融通するマネジメントシステムの「知見」だ。

## 取り返し

D Eホールディングスの中長期経営計画によると、23年3月期末実績の売上高は91億円、営業利益率はマイナス

## V字回復

足 かけ8年闘い抜いてきた「類いまれなる強靱な意志と意欲」はさらに激しく炎立つ。小野氏が10月4日発表の中長期経営計画に盛り込んだ一文だ。

16年6月、小野氏は、自動車部品の点火コイルを製造するダイヤモンド電機の社長に就任した。コンサルタントとして若手社員の教育に携わっていたことがきっかけだった。当時のダイヤモンド電機は米国での独占禁止法違反によって経営が立ち行

かなくなり、創業一族から経営を懇請された経緯がある。「マイナス」(小野氏)からのスタートは果たして、コロナ禍で大幅な減収が見込まれたため、リストラの断行を余儀なくされた。20年6月に希望退職を募り、132人が応じた。V字回復への起点となったのが、21年10月のグループ再編だ。パワーコンディショナ(電力変換装置)の製品に強みを持ちながらも経営難に陥っていた田淵電機(大阪市)を19年1月に傘下に収めていた小野氏は、田淵電機、ダイヤモンド電機双方の

# 新たな雇用創出展開



鳥取市内の生産工場。グループ再編を機に、本社機能を大阪市の事務所から移転した

# ダイヤモンド電機の仲間だったみなさんへ もういちど、みんなできいっしょにがんばりましょう!

長谷川CCO直通電話 : 090-4746-4605



ダイヤモンド電機株式会社

鳥取市南栄町18番地